

2022年度　日本工学院専門学校											
建築学科											
建築施工実習 2											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	赤石　辰夫　他			実務 経験		職種	施工管理／一級建築施工管理技士				
担当教員紹介											
建設会社で現場監督として勤務し、2 階建ての信用金庫支店から 1 4 階建ての高層住宅まで様々な施工管理を担当。また超高層RC 造の技術開発にも参加し、日本建築センターの技術評定でも施工を担当した経験を持つ。											
授業概要											
前半は、全員で施工管理の各種項目について学び、さらに強さ・美しさを兼ねた軸組構造体を作成し強度を確認する演習を行う。後半は、各自が進めている設計製図の課題に教員と協議したうえで施工に関する課題を追加し、その指導を受けながら成果物を完成させる。											
到達目標											
2年間で学んだ建築施工の技術や知識、体験的に感じたことについてそれらを形として表現することが必要である。その成果物は一人ひとり異なるものであり、自分で決めて自分の表現で形にすることを実践する。また、建築として造られる物はその強さや耐久性など必要でありデザインとしても優れていることが求められるが、実現するのは施工の技術なので精度良く加工することや特性を理解して組み立てること、そして必ず期限までに完成させることを目標とする。											
授業方法											
目標達成のため下記授業内容詳細により授業を展開する。											
成績評価方法											
課題 進捗状況 平常点	60% 20% 20%	課題の成果物について総合的に評価する 作業が遅れ無く進んでいる事を評価する 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
通常の授業形態と違い、鋼板の設計製図の追加課題は一人ずつ異なった成果物になるので、毎回の授業で教員の指導を受けて次回の授業でチェックを受けることを必ず実施する。また、完成するまでの計画を立て、進捗状況のチェックも行う。											
教科書教材											
2級建築施工管理技士学科テキスト											
回数	授業計画										
第1回	工程管理と安全管理　全体工程表・月間工程表・週間工程表、安全計画・指示事項										
第2回	品質管理　工事写真（概要と撮影要領）										
第3回	施工とデザインと強度 1　軸組構造体の検討用モデル制作										
第4回	施工とデザインと強度 2　検討用モデルの載荷テスト／実大モデル制作										
第5回	施工とデザインと強度 3　実大モデル載荷テスト／改善案提案										

2022年度 日本工学院専門学校	
建築学科	
建築施工実習 2	
第6回	現場見学 1 工事現場見学（仕上工事）
第7回	建築施工の実践 1 設計製図課題の仮設計画や施工図の検討
第8回	建築施工の実践 2 追加課題の検討および指導
第9回	建築施工の実践 3 追加課題の検討および指導
第10回	建築施工の実践 4 追加課題の検討および指導
第11回	建築施工の実践 5 追加課題の検討および指導
第12回	現場見学 2 工事現場見学（工事全般）
第13回	建築施工の実践 6 追加課題の作成及び指導
第14回	建築施工の実践 7 追加課題の作成及び指導
第15回	建築施工の実践 8 追加課題 完成 提出